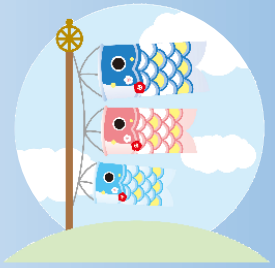




# ゆりのき



No.21 2025年5月15日発行

JWU 子育てサイエンス・ラボが発行するニュースレター「ゆりのき」は子育てにまつわる様々なトピックやお気軽に参加できる「子育てサイエンス・カフェ」のご案内を掲載しています。以前の「ゆりのき」も[公式 HP](#)で閲覧できます



## TOPICS

- 教員インタビューリレー ● 第22回子育てサイエンス・カフェ開催レポート
- 第23回子育てサイエンス・カフェのお知らせ ● JWU 子育てサイエンス・ラボ ログ ● お知らせ

Interview



## 教員インタビュー リレー

Vol. 1

様々な教員の研究内容や、JWU 子育てサイエンス・ラボでの活動をご紹介します。



人間社会学部心理学科  
教授 麦谷 綾子

人間のコミュニケーションの発達を基礎研究の視点から理解するために、行動実験を軸とするデータに基づいた実証的な研究を行っている。保育現場と発達基礎研究の相互リテラシー向上や協働関係の構築も目指している。

### Q.1 研究や専門について教えてください。

専門は発達心理学、特に乳幼児期に母語に特有の音を獲得する過程に興味を持っています。例えば日本語では、「トキ（時）」という音の並びでも、促音「っ」がはいると「トッキ（突起）」、長音「ー」が入ると「トーキ（投機）」、アクセントが変わると「トキ（朱鷺）」、と意味が変化します。つまり日本語を学ぶためには、こうした細かな音の違いを聞き取ったり発音することが必要で、その発達過程について、赤ちゃんやこどもを対象とした知覚実験や音声データベースの解析から定量的に検証してきました。最近では研究の視野をもっと広げたいと考えていて、心拍や唾液ホルモンといった生理的な指標を使った親子間のコミュニケーションの発達や、嬉しそう、悲しそうといった声の情動性がことばの学習に与える影響について、共同研究を進めています。

### Q.2 研究を始めたきっかけはなんですか。

アメリカの高校に留学していたとき、日本語を母語とする私にとっては完全に同じ音に聞こえるのに、英語を母語とする人にとっては全く違う音として聞こえる組み合わせが存在することが、不思議で仕方ありませんでした。例えば/library/（図書館）の/l/と/r/、/b/と/v/を入れ替えて/rivlaly/と発音したとしても、私には違和感なく「ライブラリー」に聞こえます。でも英語話者であれば、「そんな単語、聞いたことない。どういう意味？」となるはず。 「なぜ日本語を母語とする私はこの音の違いがわからないのだろう？」という素朴な疑問を抱いていると調べてみたところ、音の知覚感受性は母語に応じて乳児期から変化することを知ったのが、研究を始めるきっかけになりました。

### Q.3 ご自身の研究が、実際の子育てや教育、社会の中でどのように活かされることを期待しますか。

客観的な指標を用いたデータがあることは、ことばの獲得を含めた発達の多様性を理解し必要な支援を考える上で、直接的な意義があると思います。例えば、促音や長音、アクセント型の聞き取りの難しさは、ことばの発達のつまずきと関係していることが、私自身の研究から示されています。一方で、研究は常にダイレクトに何かに活かされるだけでなく、もう少し間接的に社会とつながっていくものでもあるはずです。研究から得た新しい知見や見方を社会に提供することは、子どものちょっとした成長に気づくための感度を高めたり、今のあり方が本当にその子にとっての最善なのかを見直すための素地にもなると考えています。

### Q.4 「子育て」に関わる方々へメッセージをお願いします。

子育ては親や周囲も子どもとともに育っていく過程だとも感じています。そして、どの子にもそれぞれ「持ち味」があり、それを「評価」や「比較」することなく受け止め、そっと支える過程が子育ての本質であり醍醐味ではないでしょうか。といつつ、私自身もこちらの思惑通りにはならない高校生と小学生の娘たちを相手にいっぱいいっぱいになりがちなので、いろんな方法で「ガス抜き」し、体と心に余白（≒伸びしろ）を残しておくことを心掛けています。皆さんもぜひ、ご自身の余白を大事にしてください。



次回は家政学部児童学科 安藤 朗子教授をご紹介します。

## 第22回子育てサイエンス・カフェ報告 (3月8日実施)

### 赤ちゃん 集まれ!

#### 親子のための絵本読みあい講座@日本女子大学



3月8日(土)開催、第22回子育てサイエンス・カフェ「赤ちゃん集まれ!親子のための絵本読みあい講座@日本女子大学」は、9組の赤ちゃんと保護者の方にご来校いただき、初めて対面での開催をいたしました。プログラム第1部では、本学教員によるミニ講座を、会場およびZoomでご参加の皆さまとお話を聞きました。

### プログラム第1部 ミニ講座

#### 赤ちゃんの声と聞こえの発達

人間社会学部心理学科 教授 麦谷綾子

人間は生まれてからわずか数年のうちに、ことばを自由に操れるようになります。この驚異的な言語獲得を支える「声と聞こえの発達」は、非常に早い時期から始まります。たとえば、生まれたばかりの赤ちゃんであっても、おなかの中で聞いていたお母さんの声や、お母さんが読んでくれた文章や歌などの音声、さらには母語そのものを、特別なものとして捉えています。また、赤ちゃんの出す声も、「初語(初めて意味のあることば)」に至るまでの生後約1年間で大きく変化します。一方で、赤ちゃんの発声器官は大人のミニチュアではなく、聴覚機能が大人と同じレベルまで発達するには長い時間がかかります。

そうした中で、赤ちゃんに対する大人の語りかけである「対乳児発話」や、「わんわん」「くっく」といった「育児語」の豊かさ、さらに指差しのような非言語的なコミュニケーションが言語獲得を下支えしていることは、ぜひ意識しておきたいポイントです。



#### 絵本の読みあいについて

家政学部児童学科 准教授 今田由香

絵本は私たちが人生のはじまりに出会う芸術であり文学です。つまり、読者には多様な解釈や楽しみ方が許されています。近年、乳幼児期の絵本の読書経験が注目されていますが、大人が子どもにおはなしを読んで聞かせる以外にも、絵本の楽しみ方はあります。赤ちゃんの時期には、「理解する」ことにこだわらず、自由な心で、絵本を開く喜びを味わっていただきたいです。

講義では、「0~1歳頃から」、「1歳半頃~2歳頃から」に分けて、おすすめの絵本も紹介しました。これまでの経験から選んでみましたが、赤ちゃんにも好みがありますので、読みあいを重ねながら、お気に入りの絵本を見つけてください。

赤ちゃんの絵本への関心の向け方はいろいろです。大人の期待とは違う行動をすることもあるでしょう。しかし、どのような姿も絵本を介した心の交流や表現の一部と肯定的に捉えると、新たな気づきがあるかもしれません。今回の講義の後に、赤ちゃんと一緒にみんなで絵本の読みあいを楽しみましたが、「そこが気になるんだ」、「たしかに形が似ているかも」等、赤ちゃんの姿から私たち大人が学んだことがいくつもありました。



### プログラム第2部 実践編

第2部は、対面でご参加いただいた方々を対象に実施しました。はじめに、第1部で今田先生が行ったミニ講座を受けて、「認定絵本土」の資格を持つ学生スタッフとともに、グループに分かれて絵本の読みあいを体験しました。絵に触れたり、本棚から好きな絵本を自由に手に取ったりしながら、それぞれのペースで絵本の世界を楽しんでいただきました。その後は、本学の児童学科・心理学科・建築デザイン学科から5名の教員が各グループに加わり、子育て中の保護者のみなさまとグループトークを行いました。子育てに関する悩みを共有したり、情報交換をしたりと、終始リラックスした雰囲気の中で交流を深めました。



学生と絵本の読みあい



グループトークで交流



講師と学生ボランティア

#### <麦谷教授より>

初の「対面」子育てサイエンス・カフェでうまく進行できるかドキドキでしたが、私が声や指差しを解説するまさにそのタイミングで、その場にいる赤ちゃんが声を出してくれたり、指差しをするといった嬉しいハプニングもあって、あっという間の楽しい時間でした。一番驚いたのは、今田先生が「だるまさんが」の本を取り出したとき、それまでちょっと退屈していた赤ちゃんたちの注意が吸い込まれるように絵本に向けた瞬間です(魔法のようでした...)。その後の絵本の読みあい実践の合間には、親御さんから最近のリアルな子育て事情について直接お話を伺うこともでき、実りの多い対面カフェでした。





次回の子育てサイエンス・カフェは！

第23回 子育てサイエンス・カフェ

毎日の子育てに歌を取り入れるための講座

# 歌ってつながる 歌ってひろがる

みなさんは、歌うことによって元気になったり、癒されたりすることはありますか？  
誰かを応援したり、みんなで気持ちを一つにするときに、そこに歌はありますか？  
ご存じの通り、子守唄やわらべ歌など、歌うことは子育てに欠かせないものです。では、安心・安全に、その人らしい自然な声を出すことができるためには、どのような場の雰囲気が必要なのでしょう。カフェでは、子ども達の遊び歌や表現を取り上げながら、皆さんと一緒に探っていきたいと思います。

講師

日本女子大学家政学部児童学科 教授 根津 知佳子

音や音楽を介した対話が、子どもの感性やアイデンティティとどのように関わっているのかを追究している。  
また、芸術療法(音楽療法)の手法を取り入れた創造的音楽活動の実践研究を行っている。

日時

2025年 5/24(土)  
10:30~12:00

Zoom によるオンライン開催となります。  
ご自宅からお気軽にご参加ください。

申込み

QRコード または URL からお申込みください。

<https://forms.office.com/r/U4SNtLL9>

お申込み受付後、Zoom 詳細情報をメールにて  
お送りいたします。

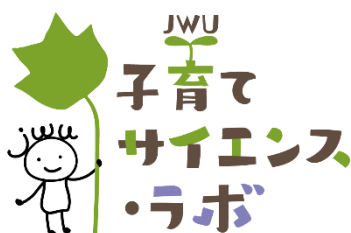
▼申込み



第24回子育てサイエンス・カフェは7/19(土)。テーマは「水の事故」。どうぞお楽しみに！

**New!** お知らせ JWU 子育てサイエンス・ラボのロゴをご紹介します！

2021年に創設した JWU 子育てサイエンス・ラボ。コロナ禍で様々な制限のある中での活動開始となり、子育てサイエンス・カフェはオンラインのみで行ってまいりましたが、2025年3月に初めて対面で開催するなど、徐々にラボの活動を拡大してまいりました。この子育てサイエンス・カフェの初の対面での開催に合わせて、JWU 子育てサイエンス・ラボのロゴマークが完成しました。今後もこのロゴマークとともに、ラボの活動を充実させていけるよう努めてまいります。



～ロゴマークに込めた願い～

このニュースレターのタイトルである「ゆりのき」は、本学が創立された明治期にアメリカから日本に入ってきた木で、すくすくと天に向かって高く育ちます。その葉っぱを持ったゆりのきの精をモチーフに使用しました。  
大きく広がった葉っぱや小さな芽吹きは、子どもの生命力や成長の可能性を象徴し、また、子どもたちを見守り支える環境であることも表現しています。

## 板橋区立中央図書館連携事業「歌って遊ぼうわらべ歌！」



うた  
歌って  
あそび  
遊ぼう  
うた  
わらべ歌！

絵本のより後継

第6回「歌って遊ぼうわらべ歌！」は6月1日（日）開催。  
毎回ご参加の小学生に大好評！  
お友達と歌を歌ったり、体を動かして楽しく遊びましょう！  
下の板橋区のホームページまたはQRコードからお申込みください。（先着10名）

<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/library/oshirase/2000879.html>

あなたの歌を  
第6回  
ポローニャにとどけよう！

イタリア ポローニャ市立サラボルサ  
児童図書館で進められている、わらべ歌  
収集プロジェクト「POLPA」に、  
あなたも参加してみませんか？

おしえてくれる歌は、いつもあなたが  
選んでいるものでOK！

すてきな歌声を聞かせてください！

※ 本事業では記録・広報のため、録音・写真撮影をいたします。  
予めご了承のうえ、お申込みください。



♪お寺の和尚さん ♪おせんべいやけたかな  
♪おちやらかほい ♪さんちゃんの絵描き歌  
♪かごめかごめ ♪郵便やさんの落とし物 など

日時：6月1日（日）14時～15時30分

場所：板橋区立中央図書館 1F 図書館ホール

対象：小学生（先着10名）

▼申込み



講師  
日本女子大学  
家政学部児童学科教授  
根津 知佳子先生

音楽によるコミュニケーションを研究しています。  
これまで5回のワークショップで、50曲の  
わらべ歌が集まりました。そのうち37曲が  
ワラベ歌児童図書館のホームページで公  
開されています。ポローニャでも参加のお友  
達の歌や遊びがどんどんひろがっています。

本事業は、  
「サポロンサ児童図書館 特別図書館連携事業」  
日本女子大学 連携事業  
として実施する事業です。

場所 中央図書館 1F 図書館ホール  
日時 令和7年6月1日（日）  
午後2時から3時30分まで  
対象 定員 小学生・10名（事前申込・先着順）  
申込方法 HP申込フォームよりお申込ください  
HP <https://www.city.itabashi.tokyo.jp/library/oshirase/2000879.html>  
問合せ 板橋区立中央図書館 ☎03-6281-0291



## 心理相談室のご案内



日本女子大学心理相談室では、地域の皆様の心の相談をお受けしています。

たとえば…

- 子どもの発達や成長が気になる
- 不登校、集団になじめない
- 子育ての悩み
- 対人関係、親子関係
- 気持ちを整理したい
- 自分の性格、将来・生き方
- 自分を見つめたい など

相談は完全予約制です。お電話でお申込みください。

日本女子大学 心理相談室 03-5810-1507（直通）

受付：火曜～金曜 9時～17時 / 水曜 10時～18時

土曜 9時～18時



日本女子大学 心理相談室

